

三〇三一番

天雲あまくもの たゆたひ易やすき 心こころあらば 我あをな頼たのめ
そ 待またば苦くるしも

三〇三二番

君きみがあたり 見みつつも居をらむ 生駒いこま山やま 雲くもなたな
びき 雨あめは降ふるとも

三〇三三番

なかなか なにか知しりけむ 我わが山やまに 燃もゆる
火ほの気けの よそに見みましを

三〇三四番

我わ妹子ぎもこに 恋こひすべながり 胸むねを熱あつみ 朝戸あさと開あく
れば 見みゆる霧きりかも